

令和8年度の取組の方向性について

令和8年3月16日

第4回沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議
内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室長

- 沖縄交通リ・デザインについては、令和5年度から検討を開始し、ここまで、
 - ✓ 沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言等により、沖縄の交通課題や市民主導・民間主導による課題解決に向けたアクションの必要性の共通認識化
 - ✓ 通勤・通学のライフスタイルに関するPIや実証を通じた自家用車依存の背景の把握、「草の根」での機運醸成、行動変容のための課題やTipsの抽出
 - ✓ PIの重視など県の政策立案プロセスにおける一定の変化といった成果が得られてきたところ。
- 他方で、過度な自家用車依存からの自発的な行動変更やその定着、中南部における交通渋滞の解消に向けては、インセンティブや情報発信のあり方、ネットワーク・結節点・まちづくりのあり方、全県的な運動への昇華といった多くの課題がなお残されており、これらの課題にアプローチするに当たっては、役割分担とタイムラインを関係者間で共有することが必要である。
- こうした状況も踏まえ、令和8年度の直轄調査においては、以下の事項に取り組むこととしたい。
 - ✓ これまで培った「草の根」での機運醸成を全県的な運動へと展開するためのPI&実証(例:グループ対抗、空想路線図作成WS、公共施設等における企画展、シンポジウム、バス通学の場合の商品割引等の地域連携 等)
 - ✓ 具体的な行動変容の前提となる中南部の自治体／高校のアクセシビリティ分析
 - ✓ これまでの調査(沖縄持続可能な交通環境構築推進事業による補助案件を含む。)により得られた成果を踏まえた、民間／行政(県／市町村／国)それぞれの役割分担のもとでの短中期的なアクションプランの策定※ アクションプランの策定のプロセスにあたっては、PIの場の活用も想定。

通勤関係

- ◇ 本島中南部の自治体2～3程度を選定し実施(今年度からの継続を含む。)
 - ✓ アクセシビリティ、到達圏分析
 - ✓ 職員ワークショップ、モビリティマネジメント
 - ✓ 通勤転換実証

通学関係

- ◇ 本島中南部の高校3校程度を選定し実施(今年度からの継続を含む。)
 - ✓ Green Mobility Challengeの展開(6月)
 - ✓ アクセシビリティ、到達圏分析
 - ✓ 校内PI(空想路線図WSを含む。)
 - ✓ 通学転換実証(夏場の実施も想定。グループ対抗、地域連携も。)

PI関係

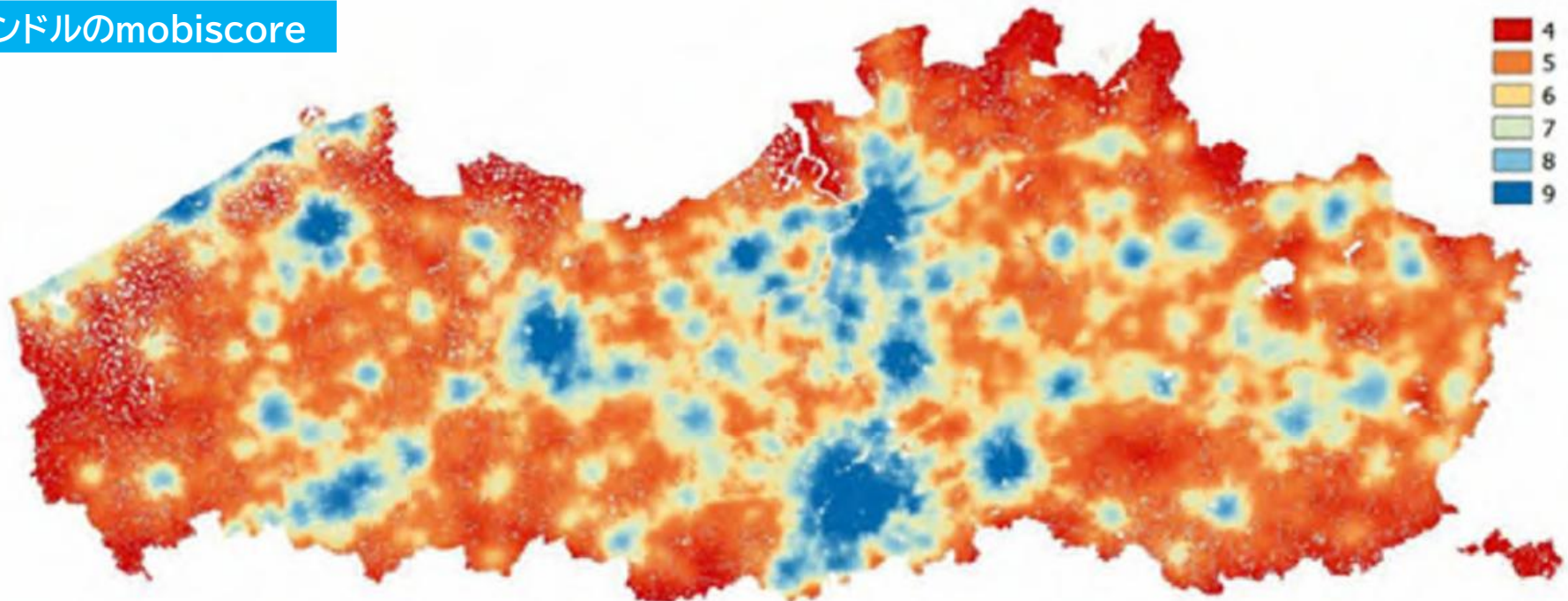
- ✓ 沖縄交通リ・デザインシンポジウム
- ✓ 公共施設等における企画展(県、自治体等との連携を含む。)

とりまとめ

- ✓ アクションプラン策定

- 過度に自家用車に依存したライフスタイルからの転換に向けて、ワークショップ等のパブリック・インボルブメントによりつつ、生活者の意識への働きかけを行ってきているところ。
- 一方で、通勤通学における公共交通利用や時差出勤等について、日常的な行動として根付かせるためには、提供されているサービスと生活リズムとの調和も必要であり、ネットワークの評価も重要。
- このため、令和8年度においては、いくつかの自治体庁舎や学校について、アクセシビリティ、到達圏分析を行い、パブリック・インボルブメントに際してコミュニケーションツールとして活用する。
- 例えば、フランドル地方においては、建物や土地に対して、駅やバス停、学校などの様々な施設に、徒歩や自転車などの持続可能な交通手段でどの程度アクセスできるかという指標(mobiscore)を割り当て、地図に落とし込み(下図の9が最もアクセシビリティが高く、4が最もアクセシビリティが低い。)

フランドルのmobiscore



- あらゆるプロセスに市民が関わるインタラクティブなアプローチを採用し、楽しみながら日常の移動を変えていくという点や環境・健康・交流等の効果を重視する点、競争・インセンティブによる継続的な利用を促す点で、So-SMARTプロジェクトと沖縄交通リ・デザインとは広くコンセプトを共有しており、令和7年度の通学実証においては、生徒からの意見収集に活用する形で連携。
- 同プロジェクトについては、大規模言語モデルを活用したチャットボット、ゲーミフィケーション、地理情報システムによるナビゲーションの3つを統合し、令和8年6月頃にOKINAWA Green Mobility Challengeという取組を実施する予定であり、通学実証等に取り入れていくことを想定。

SO-SMART: A proactive Social-based framework for SMART transportation
スマート交通のための主体的ソーシャル基盤

市民とともに進める 環境にやさしいスマート交通の実現

移動中にモヤっとしたらタップで共有

環境にやさしい経路をかしこく選ぶ

みんなの移動で沖縄を元気に



LINEで交通の困りごとを
簡単報告・地図上に可視化

地域特性やCO₂排出量などを
考慮した経路探索

環境にやさしい行動選択を見える
化するゲーミフィケーション

OKINAWA GREEN MOBILITY CHALLENGE

環境にやさしい移動チャレンジ

SO-SMARTプロジェクトで開発したモバイルアプリを使って、環境にやさしい通学や移動に2週間チャレンジしよう！エコポイントのために、チームでNo.1を目指そう！

エコポイントの獲得方法
(1) 環境にやさしい通学や移動を実践する
(2) 移動の学習課題に取り組む

主催：SO-SMARTチーム
連絡：サブリーダー
(wjs2004@kit.ac.jp)

本取り組みは、奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST)、京都工業繊維大学 (KIT)、沖縄先端科学技術大学院大学 (OIST)、ハンガリー・セゲド大学、トルコ・カラブク大学、フランス・コート・ダジュール大学の共同チームによるスマート交通のための主体的ソーシャル基盤 So-SMARTプロジェクトの一環として進められています。

令和8年 3月

第4回県民運動推進会議

- 今後の進め方

令和8年 6月

第5回県民運動推進会議

- R7年度までの取組と成果の報告
- とりまとめ方針(案)
- 関係者調整・PIの具体的な進め方

令和8年12月

第6回県民運動推進会議

- R8年度 of 取組の現状報告
- とりまとめ(アクションプラン含む)骨子(案)

令和9年 2月

第3回シンポジウム

- 骨子の報告

令和9年 3月

第7回県民運動推進会議

- R8年度の成果報告
- アクションプラン(案)

令和9年 春頃(?)

とりまとめ・公表

PI

・
関係者調整